



職人生産システムの現場、昔ながらの加工用機械を使っている

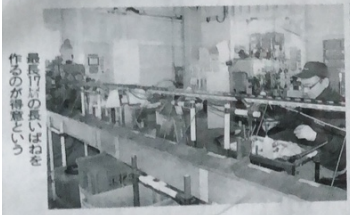
工場探訪

沢根スプリング

ばね製造 短期納入が強み

浜松市南区のばね製造販売業「沢根スプリング」は、標準品として5000種類を取り扱うほか、1本からの受注

「人を大事に」残業時間も短く



細長い長いばねを作るのが得意という

生産にも短期納入で対応している。キャッチコピーは「世界最速工場を目指す」。モノ作りを通して時間という価値を提供することをモットーにしている。

工場では、様々な大きさの材料が、機械で素早くばねの形に巻かれていた。作業する人の腕の見せどころは、この後の熱処理で材料が膨らむなどして直径が変わるのを見越して、機械に数値を入力し、顧客が要求する図面通りの寸法に仕上げるのだという。



【メモ】1966年に沢根社長の父・好孝さんが設立。材料の線径0.02ミリから12ミリまで製作でき、体操競技の床用ばねから、動物実験で脳血管クリップに使うマイクロコイルまで幅広く対応している。中国・無錫市に合併会社がある。本社工場では、申し込みがあった企業や大学などの見学を随時受け入れている。

従業員は約50人。人を大事にする会社を志す。目本でいちばん大切にしたい会社。大賞で2014年、中小企業庁長賞を受賞した。だが効率重視するより、自分達の頭で考えることで仕事は楽しくなる。と、沢根社長の言葉が心に残った。

こうして生産ばねが1990年代初期に同社生産量の8割を占めていた。しかし納入先だった自動車関連企業の生産拠点が海外に移ったため、特定の顧客、業種に依存せず、小口を増やす戦略を取った。今では小口が6割、生産が4割だ。沢根孝佳社長と父で前社長の好孝さんが、社内の反対もある中、カタログなどを配り販路拡大に取り組み。毎日2000個、3000個を生産するという小口ばねは、手加工が主だ。分業せず1人で完成させる「職人生産システム」を取っており、職人たちは毎日違う図面と向き合い試行錯誤している。

スピード重視とあって仕事が出来ていないと思いきや、月の残業時間は平均1人当たり10時間未満。沢根社長は「いい意味でゆとりがある。腹八分経営。(目いっぱい受注せず)動いていない余裕が機械があってもいいと思ってる」と話す。黒字を維持できているのは、納期短縮で差別化を図り、価格競争に陥らないようにしているからだという。

しんが糸